



07

銀座街づくり会議

www.ginza-machidukuri.jp

99

銀座街づくり会議/G2020 連続シンポジウム :: 新しい銀座ヴィジョン ～未来にわたって銀座が個性輝く街でありつづけるために～

連続
シンポジウム

第1回

変貌する東京のなかの〈銀座〉

銀座では1998年に「地区計画銀座ルール」を中央区様とともに策定し、99年に「銀座街づくりヴィジョン」を発表しました。そこから18年がたとうとしています。社会情勢の変化、銀座の変化をふまえ、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックという大きなイベントを契機に、新しい銀座ヴィジョンに取り組む時期と考えています。その議論の場として連続シンポジウムを企画し、その第1回が開催されました。

8月4日（木）、銀座フェニックスプラザ会議室にて、連続シンポジウム第1回「変貌する東京のなかの〈銀座〉」が開催されました。

中井検裕さん（東京工業大学）の基調講演タイトルは「変貌する世界のなかの銀座」。中井さんは小さくても戦略的に動くことで世界に大きな存在感を示し、成功を収めている都市の例としてルクセンブルクとナント（フランス）。大都市の例としてニューヨーク、ロンドン、シンガポールの例を挙げ、それぞれの戦略とその成果を紹介しました。

それらの世界の都市と比べ東京の特色は、それぞれ個性と魅力を有した拠点が、都心部を中心にクラスター状に分布していることです。たとえばニューヨークでは、地価や家賃というメカニズムを中心に、先端地域が次々と移り変わっていますが、東京はそれぞれの地域が同時に動いていくというダイナミズムを持っています。しかもそうしたクラスターが緊密な公共交通のネットワークで結ばれていることが、東京の最大の強みとなっています。東京には次元複合的な街がたくさんあり、しかも複合の様相がそれぞれのところで異なっているのです。

では銀座はどうでしょうか。銀座には「銀座次元」と言えるようなものがあるのではないかと、中井さんは言います。では銀座次元とは何か。ひとつは、新しいモノやコトを普及し社会化させていくショーケースのような場所であるという歴史的な役割。2つめは、商品やサービスの提供とそれに伴う社交。3つめとしてハレの場であること。4つめに、空間的特徴としても世界的に珍しいグリッド状の路面商業集積であることです。

銀座は、頂点であり続けなければならないという宿命を背負っていると中井さんは指摘します。将来も頂点で

あり続けるためには、銀座次元の基本構成をしっかり守っていくことが大切です。一方で、守るばかりではなく、他の街と競争していくダイナミズムが必要です。それらは商業開発や用途構成のなかに現れてきます。改善すべきこととしては、歩行者環境と交通問題が挙げられました。

続くパネルディスカッションは、「銀座から変える東京」と題し、中島直人さんの進行ですすめられました。

最初に、東京都土地利用計画課長の吉野敏郎さんから、東京における銀座の位置づけが紹介されました。次に全銀座会街づくり委員長である岡本圭祐さんから、個別の事業者が知恵を出し合っただけでモザイク状になっていることが魅力のひとつである銀座で、大手デベロッパーに期待することとして、エネルギーや防災についても語られました。

続いて、銀座にかかわりの深いデベロッパーである、東急不動産の岡田正志さん、森ビルの御厨宏靖さん、三菱地所の井上俊幸さん、三井不動産の河村隆司さんから、他の街と銀座の開発の違い（銀座の個性、特質）と、オリンピック以後のレガシーについての各社の考えについて発表していただきました。

最後に中井さんは、「銀座は一つずつが非常に丁寧に作られた大中小さまざまな粒の集まり。大きな粒を前面に押し出していく街づくりではなく、それぞれの粒を磨いていくことで街全体を磨いていくことが銀座の方向性ではないか」とコメントされました。

「変貌する東京のなかの〈銀座〉」の記録について・・・
DVDは貸し出ししております。議事録は、ご希望の方に実費でお分けしています。町会や各店舗での勉強会などにお役立てください。

第3回は、11月11日（金）13：30-15：30に開催予定です。準備が整い次第、ホームページにてお知らせいたします。
<http://www.ginza-machidukuri.jp/>